

# 正徳館

## だより



県立正徳館高等学校  
長岡市与板町東与板 173  
TEL0258-72-3121  
令和6年3月1日発行

### PTA会長より



『ご卒業おめでとうございます』

PTA会長

本日正徳館高校の卒業を迎えた3年生の皆様、卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにおかれましては、今日のこの日を迎えられたことをここによりお祝い申し上げます。PTA活動におきましても多大なるご信頼とご協力を賜りました

事を心より感謝申し上げます。

今日卒業を迎えた生徒達が中学校の義務教育を終えて、ここ正徳館高校に進学すると決めた3年前を思い出します。親も子も緊張で張り詰めた合格発表当日ガチガチに固まって口数も減っていた生徒達。今はどうでしょう？

皆さんは、正徳館高校に希望をもって入学し、この3年間でこうして立派に成長することができました。これは、ひとえに、勉強で、部活動で、課外活動を通して、達成感、時には挫折感を味わいながらも一生懸命に学んできた結果、今日の卒業式を迎えることができました。そして、それを支えてくれたご家族、先生方、地域の方々、友達

存在のありがたさに十分気づいていることでしょう。

これから先の人生は、選択の連続です。近年では、技術の進歩による情報量の増加や、従来の生活スタイルからの変化の中で、自分で考え、選択し、行動することが求められるようになりました。いい学校に進学し、いい会社に就職する事だけが、豊かな人生を送れると思っていた時代とは大きく流れが変わりました。これからは、個人の考え方や行動力が、自分自身の人生を最適な方向へと導くことに繋がると考えられます。この三年間で培った力は将来に向けて各々の道を選択し、グローバルに活躍する土台が既に作られていると、確信しております。正徳館高校で出会った多くの方々とのご縁を生涯大切に、ご指導してくださった先生方、見守ってくれた保護者への感謝の気持ちを胸に、皆さんの光り輝く将来が、楽しく幸せで豊かなものとなることを願っています！

### 学校長より

『祝 卒業』

校長 羽豆 拓夫

正徳館高校十七期卒業生二四名の皆さん、保護者の皆様、御卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、お子様が卒業を迎える節目に、これまでの御苦労を思い返されながら大きな喜びに包まれていることと存じます。

卒業生の皆さんは新型コロナウイルス感染症のニュースが国内外を駆け巡り、マスクをつけての生活が日常となった2年目の春に正徳館高校に入学しました。入学してからは、地域貢献活動（楽山苑・井伊神社清掃）、スポーツフェスティバル、インターシップ等の学校行事は工夫しながら実施することができましたが、残念なことには2年生の時には2泊3日の修学旅行を実施することができませんでした。県内1日の燕三条方面へのバス

研修旅行を代替として実施しました。「禍を転じて福となす」とまでは言えないかもしれないませんが、結果として生徒が地場産業について理解を深める機会となり、「地域に学び、地域とつながる」という本校のスクールミッション（学校の使命）に沿った教育活動を実施することができたと思っております。令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症が第5類へと引き下げられたことにより、それ以降は完全ではありませんが、ようやく以前の学校生活の形を取り戻しつつあります。正徳館フェスティバル（文化祭）は3年生がリーダーとなり生徒みんなで協力して工夫を重ね、地域の方々からの御協力もいただき、成功裏に終えることが



できました。皆さんの思い出の1ページになったことと思います。

国内外に目を向けると、この3年間では、新型コロナウイルス感染症だけでなく、ロシアによるウクライナ侵攻や、今年の元日に起こった能登半島地震など、これまで予測できなかった大きな問題が次々と起こっています。皆さんはこれからの人生において、予測不能な多くの試験や課題、困難に直面することがあるかもしれません。人と人とのつながりを大切に、周囲の人たちと協力しながら目の前に立ちまはるハードルを一つ一つ乗り越えていってください。

最後に、本間PTA会長様はじめ、役員、保護者の皆様方には、日頃から本校の教育活動に御理解、御協力をいただき本当にありがとうございます。感謝申し上げます。お子様のこれからの成長を祈念して御挨拶とさせていただきます。

## 『祝 卒業』

### 三年一組担任

卒業生の皆さん、ワクワク・ドキドキの毎日を過ごしていますか。皆さんの担任に就いた令和3年4月7日(金)のSHR、私が担任として皆さんの前に立ったときの第一印象は、決してワクワク・ドキドキではありませんでした。それを変えようと、4月10日(火)5限に行ったクラス全員の話し合いから始まった終令の実施と毎月の振り返り等々。いつも心配をし、いつもバタバタしていました。そのため、「エーッ！もう卒業なの？」というのが正直な気持ちで、もともと一緒に過ごしていたら、このクラスのことをもっと分かったのではないかと残念です。

そんな中、皆さんから教えてもらったことがあります。それは、「だれもが輝くものをもっている」ということです。「いつも無邪気な笑顔を見せてくれること」であったり、「日直の仕事に不都合があると、容赦なくやり直しの掟」であったりと、あまり表には出ないけれど、そういった皆さんの輝きに出会えるたびに嬉し

く思い、にやけていました。

ところで、就職して社会に出ていく人は勿論、進学する人も全員が、これから多くの人から助けられ、支えてもらえることでしよう。人の心は見えませんが、心遣いは伝わります。仲間が辛く苦しそうなときや淋しそうなとき、皆さんから声を掛けてあげてください。掛ける言葉が見つからないときは一緒に寄り添ってあげてください。必ず伝わり支えとなります。

この文章を書いているとき思ったことは、皆さんへの感謝です。初めてのSHRからスツとお爺ちゃんと変わらぬ年代の私を受け入れてくれてありがとう。忘れられないクラスになりました。

最後になりましたが、生徒が卒業の日を迎えられたのは、保護者の皆様の支えがあつてこそだと思えます。3年間、本当にありがとうございました。



## 『進路指導室より』

### 進路指導主事

御卒業おめでとうございます。春からの新生活に期待で胸膨らませていることと思います。

今年度の進路状況を振り返ってみると、コロナ禍の停滞を経て、求人数は長岡管内だけでなく全国的に増加しました。進学に関しても、県内志向から再び県外学校へも受験の動きが戻ってきたのを感じます。学校推薦型(指定校推薦)の枠も増加傾向にあります。

就職も進学も売り手市場に感じるかもしれません。が、その中でこそ、周りに流されずに、自分がやりたい仕事や将来像に向かい合った経験がとても大事になります。これから先の長い人生、納得いくものになるかどうか何度も試される時期が訪れるはずだからです。

全校の先生方に関わってもらい、なぜそこに就職、進学したいのか、自分の適正や希望は何なのか、履歴書や面接練習を通じて話し合いましたね。人間は多面的なので、ほんの一部分だったかもしれないし、今後変わっていくかもしれませ

んが、それは良いのです。次の岐路に立ったとき、十八才の原点はあそこだったな、と思いつくことが何か手助けになれば幸いです。大きな変革期に生きる皆さんの御活躍をお祈りしています。

### 【進路先一覧】(五十音順)

#### (進学)

クレアヘアモード専門学校、群馬自動車大学校、国立病院機構新潟病院付属看護学校、新潟国際自動車大学校、新潟情報専門学校(大学併修コース)、新潟職業能力開発短期大学校、新潟日建工科専門学校、長岡公務員・情報ビジネス専門学校、長岡美容専門学校

#### (就職)

栗島浦村役場、株式会社アドテックエンジニアリング、株式会社今町コナ、株式会社新潟県厚生事業協同公社、株式会社コナ長岡工場、株式会社星野製作所、株式会社ヤオイサンフーズ長岡工場、北信越ジョーシン株式会社、タカラスタンダード株式会社新潟工場、中越通運株式会社、TKKラムダ株式会社長岡テクニカルセンター、陸上自衛隊

## 『正徳館高校の思い出』

三年一組 代表

私が三年間を振り返って一番思い出深いのは、文化祭です。高校生活の中で一番充実実来て、色々な人と関わった最高のイベントでした。そんな、文化祭を三年間三回行ない自分の成長が一番見えた部分としてあげました。

まずは、一年生の時の文化祭です。一年生の時の文化祭はコロナ禍真只中で、人数制限やそのほか含め色々とお出ないものだらけでした。そんな中での文化祭は、私自身高校に入学して初めての文化祭だったので不安や緊張がありました。ちゃんと皆の行動についていけるか、上手く計画が立てられるか、色々な心配に飲み込まれそうでした。ですが、文化祭の準備の際に同級生や先輩の方々が「大丈夫だよ」「一緒に頑張ろう！」と励ましの言葉を言ってくれたので緊張不安が和らげました。私はその瞬間に励ましや助け合いの大切さに改めて気づけました。

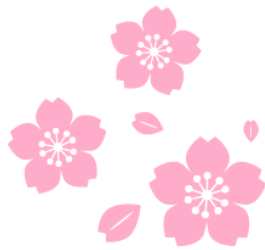
二年生ではその心意気を忘れずに文化祭に臨みました。コロナの制限が殆ど解除されており、計画が立てやすかったです。

二年生に進級し、初めての後輩が出来ました。その時に思ったこととして後輩達は入学してからまだ数ヶ月しか経っておらず先輩と上手くいくか心配だと思うので、話しかけやすい雰囲気作りをしました。後輩達に積極的に話しかけ、丁寧な分かりやすい説明等を行いました。そのおかげなのか、後輩と良く意思疎通ができるようになります。文化祭はとてもスムーズに進行できました。ここでは、行動力と積極性が自分に生まれたと実感しました。

最後に三年生です。高校生活最後の文化祭では、今までやったことのない令和らしい事をしたと思います、カラオケとダンスを取り入れた企画を立てました。カラオケの企画では設置やコード関係がとても難しく何度も上手いかず諦めかけていました。ですが、後輩達が、励ま

してくれたり、助けてくれたおかげで最後までやり通し、無事うまくいきました。当日もお客さんが楽しそうに拍手をしてくれました。とても嬉しかったです。

ここまでの三年間で色々なストーリーが繰り広げられました。本当に自分は成長したなと実感できる三年間でした。



## 『文化祭を振り返って』

三年一組 代表

私が高校生の中で印象に残っている事は、三年の正徳館フェスティバルで、装飾リーダーをした事です。今までは、リーダーという立場に立った事がなく、大勢の人の前で話すことも得意ではなかったのですが、指示を上手く出す事ができるか心配でした。

そこで私は、先生に人をまとめるコツを聞き、卒業生が残してくれた文化祭の資料をもとに飾り付けのアイデアを考えました。

初めて、装飾チーム全員で集まった際、内容を細かく考えておらず、スムーズに進行する事ができず、これから先上手くやっていけるか不安で落ち込んでいたところ、友達や周りの人が励ましてくれました。そのおかげで最後までやり遂げ、最高の文化祭にしたいと思いました。前のようにならないよう、やるべき事を紙にまとめ、原稿を前もって作るようにしました。

そのおかげで、前よりスムーズに進行できたように感じました。前日の全体準備の際、飾り付けのポジションについてあまり確認をしていなかったのですが、飾る場所と飾りの大きさが合わない事もありましたが、周りのアドバイスのおかげでなんとか飾る事ができました。この経験から、ポジションの確認の大切さがよくわかりました。ハプニングもありましたが、後輩

達と協力して進める事ができ、最高の文化祭にできたと思っております。今回の経験を活かし社会に出ても恥をかかないような心がけて過ごしていきたいと思えます。



## 行事等報告

### 『球技大会で思ったこと』

二年一組 代表

私は今年度の球技大会を振り返りかえり、思ったことが2つあります。

一つ目は、諦めなければ決勝戦まで行けるという事です。なぜこう思ったかという点、私達のチームは、練習でできず、二年生の中では一番弱いと言われていました。大会当日もやはり予選の最初

のほうは点が全くとれず、三年生との試合では、あと1点で三〇点取られるという場面もありました。自分達の目標が「優勝」だったので、難しいかなと思いましたが、チームの中で声をかけ合ったり、試合の前半と後半の間にはチーム内でアドバイスをしたり、諦めずに頑張りました。その結果、予選を2位突破できて、決勝トーナメントでも少しは苦戦しましたが、決勝まで進むことができました。目標の優勝まであと1勝！しかし、決勝の相手は、予選の時に、あと1点で三十点とられるという試合をしたあの三年生のチームで、優勝はできないかな、という考えがよぎりました。いざ試合をしてみると、前半が終わった時点で4点差あり、勝てると思いましたが、後半が始まったら一気に逆転され、結果的には二十五対二十四で負けてしまいました。準優勝することができました。諦めなければここまで行けるんだ、という事がわかりました。

二つ目に、楽しむことは大事だと分かりました。楽しんでいたらチーム内で色々声かけができましたし、もしあのまま誰も声を出さずにチーム内の雰囲気が悪くなっていたら、このような結果にはなっていなかったと思うのです。



これが今回の球技大会で分かったことの2つです。最後に、来年は絶対優勝したいと思います。

### 『球技大会を振り返って』

一年一組 代表

球技大会の種目は、バレーボールでした。体育の練習では、初めはレシーブやトスな

どがあまりできず、パスもつながらなくて、皆心配になっていました。

しかし大会では、皆試合に勝つために全力で頑張りました。練習では出なかった声を出して仲間を応援する姿があり、みんなの試合に勝ちたい気持ち伝わってきました。仲間が失敗した時も、チームの人たちがドンマイと声をかけて励まし合っていました。そして試合相手が二年生や三年生でも、負けなように頑張つて勝負したり、どれだけ点差があっても皆諦めずにプレーしていました。

私は、試合前は一回も勝てないと思つていたけれど、大会後に結果を見てみると四回も勝つていたことがわかり、自分たちがここまで、上級生と戦えていることに驚きました。

来年も球技大会があるし、来年も同じクラスで行事できます。来年に向けて私ができることは、クラスの人のいろいろな場面で協力し合うことです。

このクラスでさらに絆を深めていきたいと思えます。

### 『キャリアアガイダンスを振り返って』

一年一組 代表

私はこの一年間、キャリアアガイダンスの授業で与板のことを学びました。そして班で与板の文化と歴史についてのスライドを作り、発表する活動を通して気づいたことが二つあります。

一つ目は、コミュニケーションの難しさです。私はスライドを作る班のリーダーになったのですが、今まで人をまとめる機会がなく、緊張していたこともあって、最初はなかなか意見を言うことができませんでした。どのよう指示を出したらいいかわからず、授業中もあまり積極的な話し合いができませんでした。しかし、スライドを作っていくうちに、だんだんと指示や意見を私もみんなも出せるようになり、まとまったスライドを完成させることができました。



二つ目は、全員で確認することの大切さです。スライド作りのあとに原稿作りの担当を決めて作業をしていたところ、お互いに急いで作業をしていたため、それぞれの内容を確認できず、原稿内容が本題と繋がっていないように見えてしまうことがありました。そこでお互いに内容を確認しあい、本題に繋がるように内容をすり合わせました。全員で確認し協力し合った結果、方向性の違いもなく連携が取れ、本番の発表を迎えることができました。今回のキャリアアガイダンスで気づいたこの二つと、班のリーダーとなり四人をまとめた経験を、今後の活動に生かしていきたいと思えます。